

子ども家庭支援の心理学

第1回：乳児期の発達

授業の進め方

- 1.子どもの発達
 - 2.家庭について
 - 3.子育てについて
 - 4.支援が必要な家庭について
 - 5.発達障害について
-
- 今日は、乳児期の発達を説明。

発達を学ぶ意味

- 今日から、発達について進めていく。
 - 保育者は、子どもに関わる上で、「**発達を正しく理解する**」必要がある。
 - 実習でも評価される項目。
-
- 「保育の心理学」でも、そのあたりはやったと思います。

乳児期の理論

- 乳児期が具体的にいつまでなのかは諸説がある。
- 保育所保育指針では、1歳までを乳児としている。
- 心理学では、**1歳半までを乳児**としていることが多い。

エリクソンの基本的信頼感

- 発達心理学者のエリクソンはこの時期**母親（母性）の十分な関わり**により、子どもは「**基本的信頼感**」を身につけるとした。
- 十分な関わりとは「**授乳**」を中心とした養育。
- 基本的信頼感とは？

- 重要なことは、赤ちゃんが不安になったときに「いつも誰かが来てくれる」という安心感を持ってもらうこと。
- だから、それを一番得意なお母さんが乳児期は産休をとって、いつもそばにいてあげる。
- 乳児の保育でも、ここは重要。泣いていても、放っておいてその場で何か問題が起きるわけではないが、長い目で見ると、基本的信頼感の獲得の失敗につながってしまう。
- 乳児に対する基本は「ニーズにすかさず応えること」。
- 乳児クラスは、保育士も多く入る。

基本的不信感

- 養育者になんらかの問題があると、子どもは基本的不信感を持ってしまう。
- カウンセリングに来ている人の特徴
- 。
- 後輩の田中君（心理学入門をとっていない人にはわからないね）が防弾チョッキを着て学校に来ていたのも、基本的不信感からですね。

グループワーク

- 子どもを乳児期から保育所に預けることをどう思うか？
- 乳児の保育を行うときに、保育士が気をつけなければならないことは何か？
- 今の社会で、乳児とその家庭に足りないと思うことは何か？

精神分析における発達

- フロイトの精神分析は心理学の理論の一つであり、20世紀の重要な知的財産。
- フロイトの精神分析は大人の心理的悩みを治療することが研究の関心ごとであったが、結局「子ども時代を健康に過ごすこと」が大人の心の健康につながることを明らかにした。
- 子どもを大切にすることの重要性を明らかにしたことも、フロイトの功績の一つ。
- 精神分析では、発達段階を「性的快感を感じる体の部位」で分類していく。
- フロイトは、乳幼児にも大人と同じような「性的欲求」があると考えていた。
- そのような性的欲求を満たそうとするエネルギーを「リビドー」と言う。

乳児期 = 口唇期

- 精神分析では、**乳児期を口唇期**と呼びます。
- 口唇期とは？
- 口唇期に固着（やり残し、こだわり）があると口唇性格となる。なぜ？どんな性格？

三歳児神話

- 時間があったら話します。
- 多分詳しくは、3年の教育相談で説明。